



---

---

平成26年3月期 第2四半期 決算説明会

---

---

クボテック株式会社

# 経営成績

(単位:百万円)

	当第2四半期 (平成25年9月期)	前第2四半期 (平成24年9月期)	前 期 (平成25年3月期)	当期予想 (平成26年3月期)
売上高	1,274	792	1,995	2,900
営業利益(△損失)	△ 108 (△8.5%)	△ 333 (△42.1%)	△ 638 (△32.0%)	50 (1.7%)
経常利益(△損失)	△ 106 (△8.3%)	△ 333 (△42.1%)	△ 635 (△31.8%)	30 (1.0%)
当期純利益(△損失)	△ 117 (△9.2%)	△ 343 (△43.4%)	△ 691 (△34.6%)	20 (0.7%)

◎当第2四半期は、売上高は前年同期に比べ、主力の画像処理外観検査装置をはじめ大幅に増加しましたが、未だ低い水準にあり、損益は赤字となりました。

◎通期は、画像処理外観検査装置の売上は厳しい状況が続くものの、国内向けのハイビジョン映像伝送装置や3DCADシステムの販売が拡大し、損益は改善する見込みです。

◎海外子会社のKubotek USA、KUBOTEK KOREAは堅調に推移し、通期においても業績は改善する見通しです。

# 貸借対照表

(単位:百万円)

	当第2四半期 (平成25年9月期)		前第2四半期 (平成24年9月期)		前 期 (平成25年3月期)	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
流動資産						
現預金	1,075	27.3	2,258	42.3	1,317	30.5
売上債権	560	14.2	645	12.1	728	16.8
在庫	503	12.8	567	10.6	471	10.9
その他	△ 12	△ 0.3	△ 35	△ 0.6	27	0.6
固定資産	1,812	46.0	1,901	35.6	1,782	41.2
<b>資産計</b>	<b>3,939</b>	<b>100.0</b>	<b>5,338</b>	<b>100.0</b>	<b>4,327</b>	<b>100.0</b>
流動負債	2,761	70.1	2,975	55.7	2,685	62.1
固定負債	296	7.5	1,003	18.8	602	13.9
<b>負債計</b>	<b>3,058</b>	<b>77.6</b>	<b>3,978</b>	<b>74.5</b>	<b>3,288</b>	<b>76.0</b>
資本金	1,951	49.5	1,951	36.6	1,951	45.1
利益剰余金	△ 1,023	△ 26.0	△ 558	△ 10.5	△ 905	△ 20.9
その他	△ 47	△ 1.1	△ 33	△ 0.6	△ 7	△ 0.2
<b>純資産計</b>	<b>880</b>	<b>22.4</b>	<b>1,359</b>	<b>25.5</b>	<b>1,038</b>	<b>24.0</b>
負債及び純資産合計	<b>3,939</b>	<b>100.0</b>	<b>5,338</b>	<b>100.0</b>	<b>4,327</b>	<b>100.0</b>

◎総資産は、前年同期末に比べ、現預金、売上債権などで14億円減少し、39億円となりました。

◎負債は、前年同期末に比べ、借入金などで9億円減少し、30億円となりました。

◎純資産は、前年同期末に比べ、純損失の計上から5億円減少し、約 9億円となりました。

# 報告セグメント別売上高

(単位:百万円)

	当第2四半期 (平成25年9月期)		前第2四半期 (平成24年9月期)		前 期 (平成25年3月期)	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
日 本	656	51.5	466	58.9	1,252	62.7
米 国	189	14.9	165	20.8	350	17.6
韓 国	428	33.6	160	20.3	392	19.7
計	1,274	100.0	792	100.0	1,995	100.0
うち海外	934	73.3	513	64.8	1,323	66.3

◎日本では、大手FPDメーカーの設備投資は慎重で、主力製品である画像処理外観検査装置が、中国向けに増加し、前年同期に比べ改善しましたが、依然低い水準で推移しております。

一方、ハイビジョン映像伝送装置は、道路や河川の監視システムや放送局向けに伸張し、また3DCADシステムは、2Dと融合した製品の拡販を図るなど、当初予想を上回る増収となりました。

◎米国では、積極的な販売活動でCAD/CAMソフト「KEYCREATOR」の売上が増加しました。

◎韓国では、韓国国内大手FPDメーカー向けに、画像処理外観検査装置の改造売上などで大幅な増収となりました。

# キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当第2四半期 (平成25年9月期)	前第2四半期 (平成24年9月期)	前 期 (平成25年3月期)
I.営業活動によるキャッシュ・フロー	147	56	△ 120
II.投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 102	△ 80	△ 123
III.財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 300	80	△ 662
IV.現金及び現金同等物に係る換算差額	12	2	24
V.現金及び現金同等物の増加額	△ 242	59	△ 881
VI.現金及び現金同等物の期首残高	1,224	2,106	2,106
VII.現金及び現金同等物の期末残高	982	2,165	1,224

◎営業活動によるキャッシュ・フローは、純損失の計上はあるものの売上債権の回収などから、1億4千万円の収入となりました。

◎投資活動によるキャッシュ・フローは、CAD/CAMソフト「KEYCREATOR」の開発投資などにより、1億円の支出となりました。

◎財務活動によるキャッシュ・フローは、借入返済により3億円の支出となりました。

# まとめ

- ◎液晶をはじめとするFPD分野では、スマートフォンやタブレット端末などの製品市場は好調ですが、大型液晶パネルの需要は低迷し、大手FPDメーカーの設備投資は依然慎重な動向が続いております。
- ◎当第2四半期は、主力の画像処理外観検査装置は、前年同期と比べ売上は増加しましたが当初計画を下回りました。  
一方で、ハイビジョン映像伝送装置や3DCADシステムの販売が好調で、グループ全体では売上は微増し、赤字幅は改善しました。
- ◎通期においても、画像処理外観検査装置の市場環境は厳しい状況が予想されますが、ハイビジョン映像伝送装置や3DCADシステムの販売が拡大し、損益は改善する見込みです。
- ◎当社グループは、このような状況のもと、新規事業、新製品の開発をはじめ、固定費削減など事業構造の改革に取り組み、売上と利益の確保に努めております。
- ◎さらに、前期から新規事業として取り組んでおります次世代フライホイール蓄電システムの開発は順調に進んでおります。  
独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)からの助成も継続しており、早期の事業化を目指して開発を加速させる方針です。